

演題：「どうなる？ 2025年の世界と日本経済のゆくえ！」

—「またトラ」の米国大統領、世界にどんな旋風を巻き起こすか？ 米・中覇権争いのゆくえはどうなる。

少数与党の石破政権は、「不安定化したのか。」あるいは「（国民にとって）活性化したのか。」トラや竜（中国）に立ち向かうことができるのか。竜の不動産デフレは実際のところ現状はどんな具合なのか。—

講師：北井 義久 先生（エコノミスト）

※講演の前に参加者からの情報発信が2件あり。

○東京・練馬の自宅近くで本格的野菜作りを実践している名鉄都市開発の中町純一氏より近況報告

「農耕生活、まる15年になりました。この1月中に冬野菜の収穫が完了します。2月には畑の天地返しをして3月からは春野菜作りが始まります。冬野菜は白菜、キャベツ、葱、ブロッコリー、ニンジン、小松菜、ほうれん草です。ほうれん草は今がちょうど寒さを耐え、甘味が増してきています。今畑に残っているのは葱100本、ニンジン30束、白菜4玉（1個3,000円ぐらい）、キャベツ（1個500円）ぐらいですが、全部で2万7、8千円にはなります。野菜高騰のお陰です」

○近く(株)ジークを退職する中村弥生子氏からのあいさつ

「1月末で15年勤めたジークを退職することになりました。ジークに入社して右も左もわからないころからこの会に参加させていただき、大変多くのことを勉強させていただきました。退職の理由は、実家が石川県で焼きモノをやっておりますが、去年の能登半島地震で被害はなかったのですが、父が76歳と高齢になったこともあって、今後焼きモノの販売を東京に居たままですが遠隔で手伝うことになりました。今後もこの会には佐藤さんから『出てもいいよ』という暖かい言葉をいただいていますので都合がつくかぎり参加させていただこうと思っています。よろしくお願いします」

■主宰者（佐藤一雄氏）挨拶

中村さんのお父様は高名な陶芸家でありまして、中村さんはジークでは「営業部長」の呼び名がつくぐらい優秀でしたが、そうした芸術家の血も受け継いでおられます。それからこのフォーラムには毎回のように出席していただきました。私はこの会は講師が話をされてそれで終わりではなく、受講者が講師にいろいろと質問をして議論を深めていくところに大きな意義があると思っていますが、中村さんはその意味でもとても優秀な受講者だったと思います。



ではお待たせいたしました。今日の講演会に移りたいと思います。トランプ大統領の再登場で、今後日本にどんな影響がもたらされるのかが大変不安な状況にもなってきましたが、そのあたりも含めて今後の世界情勢と日本経済について北井先生のお話を伺いたいと思います。北井先生よろしくお願いします。

■北井義久氏の講演概要

北井氏は昨年3月末に日鉄総研を退職して以来の講演となった。これまでと同様に独自の経済統計資料（図表1～72）をもとに、パックスアメリカナの終焉、米国経済の独り勝ち、中国の失われた20年入り、日本経済のソコソコの好循環入りな

どについて語った。

今はどういう時代か

歴史的にみれば、今はアメリカのウェートが減少し、パックスアメリカナ（超大国アメリカを中心にした国際秩序）が終焉した時代といえる。いわば世界は群雄割拠の時代に入った。

図表1（世界GDPに占める主要国の比率）；1960年にはアメリカが世界全体の3分の1以上、それに日本とヨーロッパを加えれば7割以上という時代が60年代、70年代だったが、2000年代に入ると中国とインドの比率が上がってきている。

図表3（世界の年平均GDP成長率）；人類による経済成長は人口の増加と共に始まり、人口停滞と共に終わる。世界経済の成長率は1950年—73年は年5%だったが、01年—25年は3%、25年—50年は2%と予測されている。つまり、もはや人類繁栄の時代は終わった。

図表5（世界人口推計値）；現在の世界人口は80億人だが、22年の国連低位推によれば2050—60年には87億人程度でピークアウトし、2100年には今よりも少なくなってしまうという状況にある。

図表6（世界の出生率）；今や世界の出生率は2.1に近づきつつあり、今年は2を切っている可能性がある。図にはないが、インドですら2.1を切っている。つまり人類の安定した成長は終わった。だからトランプやプーチンや習近平が出てきてお互いのテリトリーを奪い合う時代になっている。

25—26年はどうなるか

図表7（米国景気一致指数）；米国の景気は見事なまでに上昇基調が続いていて、まさに独り勝ち。理由はITによるプラスがアメリカに集中している。

図表8（世界・米国の半導体出荷額）；直近の伸び率は世界全体で20%前後だがアメリカは50%前後にもなっている。もう一つ大事な要因はエネルギーだ。

図表9（米国のエネルギー輸出量）；05年ごろのアメリカは1,500万バーレルものエネルギーを毎日輸入していたが、今は逆に500万バーレルも輸出している。行って来いで2,000万バーレル。これはサウジの原油生産量の2倍。つまり、この20年間でアメリカのエネルギー生産量はLNG（液化天然ガス）と原油で2,000万バーレルも増えた。今、世界のLNGと原油生産量は1億5,000万バーレルぐらいなのでそのすごさがわかる。ということで今アメリカの景気はウハウハの状態。

図表10（米国の企業集積）；腹が立つぐらい米国の企業収益はうなぎ上り。この状況はこれからも2年ぐらいは続く。再来年ぐらいに日経新聞が「米国の時代続く」などの記事が出たら、その時がこの状態が変わるときと考えれば間違いなし！

ジャパンライズ化する欧州と中国

図表22（ユーロ圏のビジネス景況感指数）；景気のいい米国に対し、ユーロ圏は明らかに悪い状態だ。

図表23（ユーロ圏の域外輸出数量指数）；なぜ悪いのかと言うと、輸出が21年ごろからずっと減少している。コロナの前ぐらいまでは日本と一緒に輸出依存経済成長を続けていたが、いろいろな理由があって輸出が減り、足元は非常に悪化している。

図表25（ユーロ圏の建築面積許可指数）；ユーロの調子が悪い理由の一つに建築面積の大幅減がある。リーマンショックまでは不動産ブームだったが、ブームが崩壊すると一気に半分ぐらいに減ってしまい、足元ではさらに減少している。輸出も建築も駄目なので景気が良くなるはずがない。

図表27（欧州・中国の人口推計）；欧州と中国の人口減少推計はグラフの通り見事に類似している。つまり、欧州も中国もこれからは日本と同じ運命をたどるので、これをジャパンライズ化現象と言うことができる。日本と同じように「失われた20年—30年」という時代に入っていく。

日本は90年代以降30年以上景気の悪い状態が続いているが、その要因の7割以上が人口減少にあることは間違いない。逆に言えば、人口さえ増えていれば景気はもつ。ではなぜ、人口が世界の多くの国で減少しているのか。その理由は明らかで女性の社会進出が増えると出生率が落ちる。ほかの理由はなく、実に単純なこと。

自分で稼ぐことができるようになった女性は、結婚して子どもを産んで、育てるといった面倒なことはしなくなる。なぜなら、女性だってキャリアを積んで社会的地位が上がればそれ続けたいと思うのは当然。もし私が北井義子だったら結婚していなかった。もし結婚していたら、今ここで講演するようなことはできていなかった。だから、ここに立っているのは独身の北井義子ということになる(笑)。

人類は男と女が対等な時代へ

インドは今、女性の社会進出がすごく進んでいる。もちろん相対的話で、今でも社会進出に対する妨害はひどいが、昔に比べれば急激に進んでいる。だからインドでさえ女性の出生率がどんどん下がり2.1を切ろうとしている。これはしょうがないこと。なぜなら女性の社会的進出はいいことだからだ。人類は今ようやく男性と女性がイコルフिटティングの時代を迎えようとしている。これまでは女性が男性に依存せざるを得なかったから、2.1以上子どもを産んでくれていただけの話。女性の社会的進出が人口減少につながっているという話は私だけが言っているのではなく絶対に正しい。

過剰生産続く中国

中国の経済は悪化が続いている。

図表34（中国の建設投資活動・起工床面積）；21年には25億㎡だったのが今は5億5,000万㎡まで下がっている。にもかかわらず中国の鉄鋼の生産量が過大なまま大量に輸出しているので世界中の鉄鋼価格が大きく値崩れしている。これが今世界の素材メーカーにとって最大の課題。

中国が今輸出している鉄鋼は1億トン。日本は2,000万～3,000万トン。生産量は日本が8,000万トン、世界全体では20億トン。中国がそのうち10億トンを生産している。1億トンを主に東南アジア向けに垂れ流している。そのおかげで鉄鋼市場はジャブジャブ。これが日本経済にとっても足元で一番大きな課題。

図表32（中国の財政収支）；これだけ不況な中国はなぜ景気対策をやらないのか。中国の財政赤字は今6兆～7兆元。1元20円として120兆～140兆円の赤字。日本の赤字は20兆～30兆円。経済規模の違いはあるにしても中国はそう簡単に景気対策のために財政支出ができない状態にある。つまり、中国はこれからも世界にとってはお邪魔虫のまま。諦めていただきたい。

日本はどうなっているか

図表40（日本の景気動向指数）；足元の状況は徐々に景気は上向いてきている。しかし過去のピークに比べればまだ低いし、景気回復度合いも今いちの状況が続きそう。

図表41（日銀の企業短観・雇用判断DI）、図表42（春闘賃上げ動向）；ただ、私がずっと言ってきたことだが、ようやく人手不足が深刻な状況になり、そこにみんなが気付き始めた。特に中小企業は深刻で人手不足倒産が続出している。だからよ

うやく賃金が上がるようになってきた。春闘ベースで5%、一般でも2.5%~3%になっている。ということで物価上昇率を2%ぐらいに抑えていくことができれば実質賃金が1%上がって、実質消費も1%増えて経済が1%成長する。これが日本の「ベストシナリオ」となる。これ以外の成長シナリオはない。余談だが私は10年ほど前に毎日新聞の『エコノミスト』に「賃上げが日本経済の最高成長戦略」という論文を書いた。しかし、なんの反応もなかった！それが今や当たり前になった。

図表43（日本の経常利益）；では、これからも賃上げは可能か。日本企業もアメリカほどではないがソコソコ儲かるようになってきた。ただ、あまり認識されていないが儲かっているのは非製造業で製造業はもうさようならといった状況。はっきり言うとメーカーの時代は終わった。サービス業が経済を引っ張るのが先進国では当たり前。08年ぐらいまではどちらも経常利益は同じぐらいだったが、今は非製造業製造業の2倍となっている。では時価総額も2倍になっているかというとなっていない。これは日本人のメンタルが今でも「モノづくりの国」となっているからで仕方がない。

図表56（日本の米国・中国向け輸出数量指数）；個人消費も設備投資もよくなっているが、唯一輸出が低迷状態になっている。以前はヨーロッパと同じで日本も輸出依存型経済だったが、09年にガタン落ちてその後はずっと横ばい状態が続いている。だから、もう輸出には関心を持たなくて結構。為替が円高になろうが円安になろうがもうあまり関係ない。トランプが関税を20%掛けようが掛けまいが日本の輸出が今後増えることはない。もちろん、そんなに落ち込むこともない。でも心配事はある。アメリカ向け輸出は横ばいだが中国向けは30%ぐらい減っている。これも誰も言ってくれない。対中輸出が3割も減って、それが日本経済に影響を与えないなんてことがありうるのか。日経新聞も書いていない（どうでもいいことはいっぱい書くが）。

＜質問コーナー＞

Q. 宮本克夫氏（宮本企画）；日本がこれから生産性を高め、成長していくにはどうすればいいのか。

A. 北井氏；アメリカや中国が資源の無駄遣いをしてきている今が日本のチャンス。

A I 投資にヨーロッパも含めて大量の資源を使おうとしているが、これは無駄遣いになる可能性が高い。なぜなら今のA Iは基本的には古い技術でほとんど進化していません。もう一つの理由が、A Iは大規模言語モデルLLM（large language model）を教科書に使って勉強をさせているわけですが、すべての教科書がそうであるようにLLMには正しいことしか書いてありません。これが大問題で「失敗」が書いてないので失敗します。だから今のA Iは成功しません。

さらに言えば自動運転も駄目です。もし雪が降ったらどうなりますか。白いセンターラインを感知することができません。カリフォルニアのように雨も雪も降らないところしか走れません。ということで、A Iについてはお勉強程度にしておいてもらうのがいい。そのかわり日本の工作機械とかロボットメーカーにはほとんど金をつけてほしいと思います。ラピダスは、まあ仕方ないからやって見ようかというところでしょう。そこが日本の生きる道だと思います。

Q. 荒井喜八郎氏（荒井商店）；きわめて現実的質問ですが3、4年以内に円高が進んで140円を切って130円とか120円になることはあるでしょうか。

A. 北井氏；可能性はあります。ただし、長続きはしないでしょう。長い目で見れば円はこれからも円安に進むと思います。なぜなら、アメリカの成長率のほうが日本よりも高いからです。アメリカ2%、日本は1%いけばいいほうでしょう。

Q. 喜多秀正氏（喜多金属）；先ほど北井さんは、日本は肥満も犯罪が少なくで大変幸せな国だと。それは大飢饉がなかったからだと言われましたが、日本人は大陸で負けた弱い奴らが集まってきて豊かな生活を送った結果、去勢されてしまった民族ではないか。それはともかく、質問は図表43で好調という非製造業の内訳を教えてください。

A. 北井氏；一番大きいのは卸・小売（商社）で二番目は確かエネルギー、運輸・通信などのインフラ関係だったと思う。金融業は入っていない。

Q. 高橋幸男氏（不動産経済研究所）；2つ質問させてください。先ほど群雄割拠の時代というお話がありましたがそこから抜け出すのはどこでしょうか。もう一つは覇権を握る国というのは全世界から恐れられると同時に憧れる国でもあると考えます。ですから中国は絶対なれないと思いますが、その点、日本ならその位置につけるのではないのでしょうか。

A. 北井氏；最初の質問については申し訳ないが群雄割拠は100年ぐらい続くだろうからわかりません。核戦争が起きないから勝ち負けが決まらない。アメリカがパックスアメリカーナになったのは第二次世界大戦で核を使って日本を負かし、勝ったからですよね。しかしこれからはどこかが勝ち残るという戦は起きないわけです。2番目の日本でしょうが世界から憧れる国になるかですが、私は「日本万歳」は大嫌いでクールジャパンという言葉も嫌いです。

ただし、憧れまではいかななくても「へエ〜」という感じで見られてはいると思います。それも当然で、インバウンドが増えて観光客がたくさん来るようになったのもここ数年のことでしょう。「へエ〜」が憧れになるかはあと10年ぐらいにしないとわかりませんが、私はたぶん「へエ〜」で終わると思う。「外国人からすれば日本って、やっぱりすごく変わった国ね」で終わるのではないかな。

ただ、日本は変わった国で居続けることがいいことだと思います。その他大勢にはならないほうがいいですよ。日本人は個性がないとか、個人としての主張がないとかよく言われますが、日本人全体としてはものすごく変わった（個性的）民族ですよ。個人個人は平凡でも我々は集団としてすごく変わっている、それでいいと思います。

Q. 本多信博氏（住宅・不動産エコノミスト）；図表43ですが、グラフでは製造業も上がってきてはいますが、それでももう製造業の時代ではないと。

A. 北井氏；グラフは経常利益の額ですが、利益率で見るとほとんどフラットですから。今、製造業の利益率は平均9-10%。今、メーカーで利益率が4%、5%は完全にダメ企業。8%、9%はないと税金が出ない。しかし、さすがに20-30%というのはアップルやエヌビディアでないと無理。

Q. 本多氏；日本の半導体産業はどうですか。

A. 北井氏；ひと言でいえば、半導体産業は「もってけ泥棒」ビジネスになっている。今、エヌビディアの利益率は50%、100円で売って50円儲けている。なぜそんなことになっているかといえば供給源がエヌビディアだけだから。もう一つはアマゾン、XなどAIに入れ込んでいる大金持ちがいるが、彼らがエヌビディアの言い値で買い取ってくれる。この2つの条件がそろわないと利益率50%にはならない。独占かつものすごい需要があるということ。そんなおいしい話が世の中にいくつもあるわけがない。

Q. 本多氏；半導体の需要は無限に広がっていくイメージがありますが。

A. 北井氏；さすがに2ナノm（1ナノは10億分の1）までで止まると思う。それ以

上膜が薄くなると電子が染み出してしまいうらしい。それを防止する技術が完成したという話はまだ聞いてない。もちろん、それを解決する技術や方法は編み出されるだろうが、それもいずれ限界が来る。つまり物理的現象には物理的ゆえに必ず限界がくる。

Q. 中町純一氏（名鉄都市開発）；日本は「失われた30年」ということで、マイナスイメージが強いが、この30年で街がきれいになり、駅のトイレもきれいになって、おいしいものもたくさん食べられるようになった。また、オヤジ狩り、暴走族もあまりいなくなった。その点はどう評価されますか。

もう一点は、賃金上昇で人件費が上がればいろんな人も加わって付加価値が付いて生産性が上がるという見方は正しいでしょうか。

A. 北井氏；最初の話は、要は若年人口が減ったからです。殺人を犯すような一番乱暴なのが20代の男。20代男の数は半分以下になったから殺人件数が半分以下になるのは当たり前。また、日本の小学生の従順さが海外から「へえ〜」とみられている。先生の話をあんなに大人しく聞いている姿は外国人には理解できないらしい。

だから日本は安全安心の国になっている。

二番目はおっしゃる通りです。アメリカの一人当たりGDPが日本の1.5倍か2倍です。その差は人件費で説明できる。今、アメリカのチーフエコノミストの年収は50万ドルです。日本なら1,000万円から1,500万円ぐらいでしょう。それは全部付加価値です。しかしアメリカのエコノミストが日本のエコノミストの3倍の付加価値をつくっているかと言え、つくっていません。しかし、GDPを計算する上では付加価値として計上せざるを得ません。付加価値は人件費と企業収（ケインズ）ですから。だから、GDPを多国間で比較するのはとても危険です。特に一人当たりはなおさらです。伸び率はいいですけどね。だって、アメリカ人が日本人より2倍も3倍も豊かだなんて信じられませんか。

Q. 喜多氏；日本製鉄はなぜUSスチールを買収したいのか。

A. 北井氏；関税で守られている米国の鉄鋼業界は世界の中で一番儲かる市場だからです。そこで300万トンから400万トンの鉄の製造能力が欲しいということです。そのために橋本会長は今後ケンカを売りまくるわけです。日本の経営者には珍しいケンカ上手な人です。

＜業界記者のチョット 駄見＞

～北井講師の魅力を探る～

今回も北井氏の講演は期待どおり興味深いものとなった。そのわけを探ると、北井氏が一つの経済資料から導き出す結論の面白さ、大胆さだと思う。物事をなるべくシンプルに捉えようとする叡智と深い見識がベースにあるだけに、どれほど大胆でも説得力がある。

例えば「世界経済の停滞が人口減少とリンクしている図表3では、既に人類繁栄の時代は終わったと宣言。日本の輸出量が15年も横ばいで推移していることを示す図表54では「トランプが関税を掛けようが掛けまいが日本の輸出は増えない」と断言し、「日本経済は実質賃金を上げて個人消費を増やすことだけに注力すればいい」とわかりやすい。

質疑応答でも北井節がさく裂した。日本の街がきれいになって犯罪が少なくなったのは、「一番凶悪な20代男性の人口が半分以下になったから当然」とシンプルそのもの。こんなことを言うエコノミストはほかにいないだろう。そういえば、「日本人の魅力は個々人にあるのではなく、1億の集団となったときに世界一変わっているところにある」という見解にも新鮮さを感じた。

北井氏の講演に誰もが魅力を感じるのには数字をベースにした議論になっているからだという指摘が今回もあったが、これまで同氏の講演を聴いた誰もが感じていたことだ。しかし、その最大の魅力はなんといっても、高齢者を「ジジイ、ババア」と呼び、他国に対し「ザマァ見ろ」と言ってしまう乱暴な言葉遣いにある。最近の講演のほとんどがパワーポイントを映し、その内容を順次説明していくだけの味気ないものになってしまったことに比べれば、北井氏の講演は確かに数字をベースにした経済講義に違いはないが、その魅力を支えているのは北井氏の人間的思想であり、その人柄である。

＜参加者の声＞ アンケート(印象に残った点)より

★全世界的に（インドも）出生率が2.1を切っている

★中小企業はバブル以来の人手不足

★合理化省力化投資をもっと推進しなければダメ

（株）ジーク

★円高について

★主要国の肥満度について

（株）荒井商店

★数字で物事を語る

★すべてのデータがわかりやすく、貴重なものでした

★出生率の低下は女性の社会的地位の向上とつながりがあり、自然な流れだという

点も印象に残りました。

（東京建物不動産販売株）

★成長の一番のポイントは個人消費

（株）荒井商店

★合理化、省力化への投資が最重要なのは同感

★雪が降ったら自動運転ができない、についても

（無記名）

★A Iに関するご意見

★日本における賃金上昇について (東京建物不動産販売(株)投資商品開発部)

★いつもながら数字に基づいた(一つの仮説からの)話術には敬服しました

(株)宮本企画)

★大変勉強になりました。いつもありがとうございます

(株)インテリックス)

★いつも興味深いお話をありがとうございます

(株)東京建物リアルティ)

★急激な円高予想

(東京建物不動産販売(株)投資商品開発部)

以上

